

# 北の大地で飛躍へ



佐伯 嶺

アイスホッケーの本場、北海道での飛躍を誓い、春を待ち遠しく感じている松前町の男子中学生がいる。県内唯一のジュニアチーム「松山オレンジホーネット」で主将として中学生選手を率いる岡田中3年の佐伯嶺(15)だ。このほど、北海道栄高(白老町)にチーム初の競技推薦で特待生として入学を決めた。

アイスホッケー―佐伯嶺(松前・岡田中3年)

## 北海道の有望校へ進学

### 「本場で力を示したい」

チームの藤田直人代表によると、北海道栄高は近年、道内外の有力選手が集まるなど、期待が高まっている。

佐伯は小学1年のときに父浩司さん(51)の友人の誘いでアイスホッケーを始め、積極的なプレーでディフェンスを担ってきた。シーズン中は週1〜2回、イヨテツスポーツセンター(松山市)で練習し、オフシーズンは北海道や通年リンクのある岡山県に単身向かい鍛錬を重ねてきた。

2016年のサマーカップ争奪小・中学生選手権大会(岡山県)では中学生の部で優勝を果たし、主将として出場した17年の西日本小・中学生競技大会では、競技最低

人数の8人で奮闘し3位に入るなど実績を残した。

より上を目指し県外への進学を検討していたところ、「氷に飢えた、がむしゃらな姿勢」を高く評価した北海道栄高からのラブコールに応えた。

「練習メニューが濃く、環境やメンバーの雰囲気も好きになった」と北海道行きを即決した。

岡田小6年の弟・慧君(12)と浩司さんとの3人暮らし。浩司さんは「寂しくなるが、自分がやりたいことを悔いがないように思い切りやってほしい」と目頭を熱くした。小学生チームで主将を務める慧君は「お兄ちゃんはおもっとまいい人がおるから」と言っけど僕の目標。努力家やけん、うまくなっけって。見習わんと」とリンクで黙々と練習に励む「未来の自分」を見つめていた。

向かう先には冬場の厳しい気候や慣れない寮での集団生活が待っている。「不安なこともあるけど、いまは一日でも早く行きたい」と素直な気持ちを隠さず「全国からプレーがうまい子が集まっている。そんな中で愛媛から(本場に)来た人でも、活躍できるように示したい」と意気込んだ。

(大津真圭)

北海道での活躍を誓う松山オレンジホーネットの佐伯嶺。イヨテツスポーツセンター

